

全日制

この6月から事務室に車いすの方がおつとめしている。皆さんには紹介していないが、障がい者の方を支援する「チャレンジ雇用」の制度を適用できると聞いたので、採用をお願いした。よろしく。

障がいのある方の雇用に関しては、8月末、中央省庁が雇用している障がい者数を水増ししていたというニュースがあった。多くの省庁で雇用を義務付けられている数に足りておらず、同様のことが多くの地方自治体でも発覚した。

私たちの社会が、障がい者の雇用を企業や地方自治体に義務付けるのはなぜだろう。どのような社会が、より多くの障がい者を支えようとするのだろうか。

今年の夏は暑いばかりでなく、西日本豪雨をはじめ、台風21号、北海道の地震等災害が多かった。日本のどこかで災害が起きると、全国からボランティアがかけつける。しかもその数は平成に入って、何倍にもなっているという。

社会のどのような要素がボランティアの数を増やすのだろうか。どのような社会がボランティアをたくさん生み出すのだろうか。

今年はサッカーワールドカップがあった。日本チームも大変な活躍をしたが、このような国際試合に日本チームが出場すると、そのサポーターたちがゲーム後にスタジアムを掃除することが話題になる。他の国のサポーターたちもそれに倣うところが出てきたという。

どのような人たちが集まれば、どのような団体ならば、試合の後に自発的に掃除をできるようになるのだろうか。

どのような社会が、より多くの障がい者をささえようとするのだろうか。

どのような社会に、より多くのボランティアが生まれるのだろうか。

どのような人の集まりが、自発的に試合後の掃除をできるのだろうか。

第2グラウンドにあるサッカー班のシューズをずっと揃えてくれる地元の方がいる。強いときのほうがサッカーシューズは揃っているという。本当だろうか

ある班活の指導者はあいさつをしなさいという。あいさつをするチームの方がよりよいパフォーマンスをしめすという。本当だろうか。

上田高校には、生徒に繰り返してトイレをきれいにしろという校長先生がいた。そういう学校のほうが生徒の人格が深まるという。本当だろうか。

こういう言葉に、疑いをかんじながらも、私たちは理屈ではうまく表現できない説得力のようなものを感じる。これらの言葉をまったく否定する勇気をもてない。

「健康」という言葉の意味を考えた。「健康」は簡単に言えば「病気でない状態」だが、私たちは日常的に別の表現もする。例えば、「私は健康だから、今日は徹夜してもかまわない」とか「私は健康だから、一食抜いても大丈夫だ」とか、「健康」という言葉には「負荷に耐える力がある」とか、「負担を受け止め、支えられる」、「より充実している」「力がより充満している」という意味もある。

より多くの障がい者を支える制度も、ボランティアも、清掃するサポーターも、社会のこのような「健康」な一面が充実していれば充実しているほど、多く生み出されるのではないか。

シューズを揃えるチームは強かっただろう。あいさつできる班活のパフォーマンスはすばらしいだろう。掃除のできる学校では、生徒は成長するだろう。それは、そのグループが今述べたような意味で「健康」だからだ

社会が病んで最たる状態が戦争だと思う。ナチスは何万人もの障がい者を殺害した。戦時、障がいのある人たちが迫害された事実は世界中に残っている。

現在国連加盟国は193か国あるが、戦後70数年間、戦争をしていない国は、日本を含めわずか8か国だけだという。

平和で「健康」な社会がどうあるべきなのか、私たちの学校生活はどうあるべきなのかということに、今、思いをいたしてほしい。